

四日市市諏訪町1-5
四日市市教育委員会
社会教育課内
059-354-8238
印刷 阿竹印刷工業(株)

四日市市PTA連絡協議会
発行責任者 岸田 諭祀

市P連ニュース

四日市市PTA連絡協議会事務局
会員のみなさまの声をお待ちしております。
TEL 354-8238 FAX 354-8308

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5
四日市市教育委員会 社会教育課内
事務担当:宮本 華代
連絡時間:月・火・木・金9時~15時

会長あいさつ

四日市市PTA連絡協議会 会長 岸田 諭祀



年度末にあたり、育児、家事、仕事、PTAを含めた地域活動等にお忙しいなか、日頃から四日市市PTA連絡協議会の活動に御協力いただき、心より感謝申し上げます。

最近「イクボス」という言葉を耳にします。イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフの仕事・私生活・社会活動のバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら組織の業績も結果を出し、自らも人生を笑顔で楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。手腕も問われませんが、働き方改革・生き方改革をするという意識が大事であり、部下のライフ情報を話してもらえらる範囲で把握し考慮に入れて仕事を頼む等、小さな実行の積み重ねが大切と言われています。忙しいからPTAへの参加が難しいと聞くことがあります。夫婦共稼ぎで仕事と育児のや

小中学校委員会合同講演会 親子関係が変わる整理収納セミナー



平成29年11月25日(土)四日市文化会館第三ホールにて、小学校・中学校委員会合同での講演会を開催しました。

講師には、三重県内を中心に家族の気持ちに寄りそう整理収納の大切さを伝えているスマイルホームの整理収納教育士、須藤有紀さんにお越しいただきました。

講師 須藤 有紀さん

「皆さんは、お子さんと部屋をキレイにしようと思った時、トラブルになった経験はありませんか?」という問いかけに会場では、うなずく姿が見えました。物をため込む事をなくすために家族それぞれが自分の「想い出BOX」を持ち、入りきらなくなったらどうするのかを見直すようにすると、子どもも自分の物の管理がしやすくなると、目的の片付けができるようになるそうです。

そこで大切になってくるのが収納技よりも親子のコミュニケーションです。子どもの声に耳を傾けて、その子に合った方法を知ろうとする姿勢を親が持

講演で、元祖イクボスといわれる、NPO法人コチカラ・ニッポン代表の川島高之さんから、「PTA活動に参加することには、(1)知人・友人が増える。(2)視野が広がる。(3)居場所が増える。(4)仕事力がUPする。(5)先生と親交が深まる。(6)学校教育に少しは参画できる。(7)学校に行ける。(8)子どもとの距離が縮まる。(9)子育ての幅が広がる。(10)大々リットがある。」と聞きました。どうでしょう。PTA活動でなく、子どもと関わる活動と置き換えても思い当たる内容ではないでしょうか。私はこれを頭の片隅に置きながら、PTA活動を始めた子ども達との時間をすごしていきたいと思っています。

最後にになりましたが、皆様の様子、地域の子も達PTAの仲間たちと、よりよき時間を過ごしていただくことを祈念して、結びの言葉とさせていただきます。

PTA講演会 子は育ち親も育つ 楽しまなくつちやもつたない

講師 高野 優さん



講演は3人の娘さんの話を中心とした子育てについてのお話でした。長女が小学四年生の頃、口から出る言葉といえは「ウザイキモイムリヤバイ」この4

人権学習会 安心して生きられる子どもを守るために 虐待・いじめ問題への対応

講師 幸島 美智子さん



平成30年2月3日(土)四日市勤労者・市民交流センターにて人権学習会が開催されました。講師の幸島美智子さんは元警察官として勤務された経験から、青少年の非行等(被害)の概要や問題行動調査結果をわかりやすく説明いただきました。青少年の刑法犯は減ってきたものの児童ポルノや薬物といった犯罪件数が増加している背景や、児童虐待の実態、いじめや自殺、不登校や校内暴力の

現状を見ると、安心して生きられない子どもがこんなに多いのかとショックを受けました。またスマホの利用実態やトラブル、依存症の実態についても話されました。もはや持たないという選択肢は難しい世の中であるため、ルールをしっかりと作って常に見直すこと何より親がスマホから離れる時間を持ち家族との会話を時間を作ることに大切ということ聞いた時には自分自身を振り返り反省しなければと思いました。

講演の中で幸島さんは、安心して生きられる子どもを守るためには親が、①自立(自律)させ常識ある大人に育て上げ、社会に送り出す。②本物の「生きる力」を身に付けさせる。③「卑

良かったかもしれない。このお話にはとても共感しました。今子育てが大変で自分の時間がないお母さんたちは、「1人になったらあれやってこれるもやらない」「自分の時間が欲しい」「そう思う事があります。高野さんは「ずっと1人で映画を観たかったけれど、1人で観ても虚しい。」とおっしゃっていました。次女は今春短大生になり、保育科に入学しました。反抗期なしでとても素直でした。子供の反抗期に気づかないのが平和だと思っていました。中2の時、思春期と反抗期が一緒に来たそうです。

広報紙コンクール

平成30年2月25日(日)四日市市総合会館に於いて平成29年度四日市PTA連絡協議会広報紙コンクール表彰式が開催されました。ここに厳正なる審査の結果、入賞校のご報告をいたします。本年度は小・中合わせて42校の応募がありました。どれも各校の様子やPTA活動のそれぞれがユニークに紹介されている素晴らしい作品で広報紙を作成された皆様の思いが結ばれていたように感じました。

- 最優秀賞 小山田小学校
- 中野ホームニュース賞 中央小学校
- 優秀賞 大矢知興譲小学校
- 入選 大谷台小学校
- 表紙部門賞 富洲原中学校
- レイアウト部門賞 八郷西小学校
- 表紙部門賞 海蔵小学校
- レイアウト部門賞 桜小学校
- 表紙部門賞 県小学校・南中学校
- レイアウト部門賞 羽津小学校・朝明中学校
- 表紙部門賞 川島小学校・西朝明中学校

検査の時に、ズリバイしか出来なかったのに、リハビリセンターに行くといふ筋肉が発達していない」と言われリハビリに通う事になり、その時も「誰かに頼っても良かった、甘えても良かった、助けてと言っても良かった」と思っていたそうです。次女は発達障害だけれど、この子が家に生まれてくれた事が意味のあるのだと思ひ、「暗いトンネルはいつかあける」「子どもは輝いている」「当たり前はない」「生きてそばに居る事に感謝しよう」と思えたそうです。